

◎内田拓海 (1997～)

『KAZE』 ソロ・フルートのための (2022)

■プロフィール

神奈川県出身。東京藝術大学音楽学部作曲科作曲専攻卒業。作曲を川崎絵都夫、小谷野謙一、野平一郎、久保哲朗、エクリチュールを市川景之、小河原美子に師事。令和3年度子ども未来財団奨学生。突き抜ける人財ゼミ第9期生。

プログラム・ノート

この作品はさまざまな風が吹き交う様子を音で表現することをコンセプトに作曲した。全体は独立した細かいセクションが連結されることで構成され、一つ一つのセクションがそれぞれ、そよ風や強風などを表している。

◎中村陽太 (2002～)

『Drifting Domain』 チェロのための (2022)

■プロフィール

6歳よりピアノを主とした音楽教育を受ける。これまでに作曲を大橋征人、藤川大晃、金子仁美に師事。現在東京藝術大学に在籍。作曲の会「shining」会員。

プログラム・ノート

使用可能な音域をある音を中心とした領域内とし、その変化や移動によって音楽が動くように作曲をした。変化や移動は漂うように不規則で、またすぐに元の場所に戻ることもある。領域では、中心となる音に対して減5度ないし増4度が現れないようになっている。これによって全ての音が領域に含まれることはない。また、これは私にとっても一つの挑戦となっている。減5度ないし増4度は無調音楽の作曲においてあまりに便利な音程関係であり、それを制限することは大きな意味があることだと考えたからだ。

◎バーロニカ・レウトズ・ドロブニツカ (1999～)

『Grace』 ソロ・クラリネットのための (2022)

■プロフィール

ザグレブ大学音楽アカデミー、シュトゥットガルト国立音楽大学を経て、カールスルーエ国立音楽大学大学院、国立音楽大学大学院に在籍。IRCAM電子音楽コース、IMPULSマスタークラス(ライブツィヒ)など、多数のマスタークラスを受講。

プログラム・ノート

『Grace』は、日本にインスパイアされ、日本で書かれたものです。<sup>ひちりき</sup> 箏篋のために書かれた日本の古典曲からインスピレーションを得ました。私が箏篋で演奏した音楽は、ある時は繰り返され、音楽が進むにつれて非常に複雑なものになりましたが、この経験から私は、この単純な反復から複雑な構造までを、ソロ・クラリネットのための本作品に反映させたいと考えました。

この曲は1小節目にある主旋律のモチーフが基になっています。このモチーフは微分音、重音、スラップタンギングによって変化し、反復は多くの装飾音符(grace notes)によって弱められています。曲はカデンツァで終わりますが、このカデンツァでは装飾音符の無調性が元のメロディーのモチーフに取って代わります。